

C：審査会の意見

事業名	社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業		
事業開始年度	令和3年度～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
団体名	NPO法人 湘南NPOサポートセンター	担当課名	協働推進課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・アンケート調査や様々な統計データを活用した現状分析、自分事としてとらえやすくなるような市民に寄り添った情報提供、住民が地域活動へ参画する機会の創出や未来のまちづくりについて考え話し合う場づくり、地域ごとに住民が主体的に取り組む新たな活動の仕組みづくり伴走支援など、団体の専門性や知見が最大限活かされた事業であったと高く評価する。また担当課としても、行政各課や地域の様々な主体との連携、橋渡しなどの役割がしっかりと果たされていた。
- ・住民の主体的な参加について、十分に配慮してすすめている点が、高く評価できる。
- ・1年目にアンケートによる課題等の把握、2年目でモデル地区による事例の整理、3年目で実践支援及び実践事例の取りまとめを行う等、地域に入りつつ計画的に事業を進めて成果物をまとめられたことは、協働という手法が最大限に活かされたからだと思った。
- ・担い手不足への対応や新しい事業の持ち方などについての提案は、幅広く横展開できる可能性を持っていると考えている。
- ・成果物である「ひらつか地域活動の仕組みづくり note」については、市民と行政双方の視点から、地域活動の変化と課題、これからの活動へのヒントが豊富な事例とともに、親しみやすいデザインで、とてもわかりやすくまとめられているので、今後、幅広く活用されるのではないかと期待している。
- ・自治会の存続問題等、地域社会のコミュニティ組織の存続や拡充の為の取り組みが急務となっている中で、現実性を備えた「仕組みづくり note」という参考冊子を作られて地域の問題解決に取り組もうとする点は素晴らしい。
- ・地域活動の担い手の高齢化や人材不足により、従前のような活動の継続の難しさをテーマとして取り上げたデータやアンケートに基づく分析に留まらず、モデル地区での実践と意見交換も踏まえ、「ひらつか地域活動の仕組みづくり note」という形で事例紹介と具体的な提案につなげたことは大変有効な取組として評価できる。
- ・地域活動のみならず「仕組みづくり note」を水平展開することで、様々な組織や団体、活動にも活用してもらいたい。
- ・「共創」という一歩進んだ概念を示したことは、今後の展開次第では期待が持てる。

（２）課題の改善や今後への助言など

・この事業には、市役所側の対応を工夫していくこと、変えていくことが伴わないと実現性が薄れるように思う。若手職員の意見も得たとのことだが、市役所としてどのように変えたいか、そこまでいかなくても、どのように考えたかをあわせて表明していただくと「協働」事業は、その価値を高めるのではないだろうか。

・「次の時代の担い手が参画する仕組み」は重要な指摘であるが、若い世代に様々な活動をいかに周知し、巻き込んでいくか具体的な検討を進めてほしい。

・モデル地区になれる地域は、ある程度課題等が明確であるが、問題は漠然とした課題感はあるけれど一歩が踏み出せないという地域だと思う。その支援を行政と団体で、今後どのように関わっていくか更に議論を深めてほしい。

・「仕組みづくり note」では、地域性を活かした独創的で魅力的な活動が数多く紹介されている。地域の事情にあわせて個別に伴走支援していくのは大変だと思うが、平塚市としての「地域運営組織」推進にあたって、画一的にならず、バラエティに富んだ個性あふれる住民主体の地域活動へと発展していくことを希望する。そのためには、団体と行政担当課がともにノウハウを蓄積し、地域に寄り添いサポートできる人員体制を整えていくことも重要ではないかと思う。

・この活動がそれぞれの地域で実を結んでいく為には、地域の問題に取り組もうとする人たちが「仕組みづくり note」を参考に第一歩を踏み出した時に、先ず壁となる問題点（組織づくりや活動の為の資金調達など）をスムーズに乗り越えられるような柔軟なフォローが不可欠だと思う。

・今回の成果物（地域活動の仕組みづくり note）を今後どのように活用して地域活動の見直しに役立てていくか、これからが重要である。自治会だけでなく、他の地域団体にも活かせるよう、庁内関係課とも共有出来たら良いのではないか。

・今後、各地域で生まれた新たな活動事例については、冊子や WEB サイト等で市民が共有できるような形にすると更なる活性化につながると思う。

C：審査会の意見

事業名	農業体験を通して不登校やひきこもりの若者と人材不足に悩む農家をつなぐ就農支援事業		
事業開始年度	令和4年度～	提案型	☒ 市民提案型協働事業 ☐ 行政提案型協働事業
団体名	NPO 法人ぜんしん	担当課名	農水産課 農業委員会事務局

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・「不登校やひきこもりの若者」と「人材不足に悩む農家」をつなぐといった着眼点がとてもよい。
- ・ひきこもりの若者の就業ニーズと農業側の労働力確保がしっかりかみあっている点が高く評価できる。
- ・引きこもりの若者の自立と担い手不足に悩む農業者への支援という、2つの側面を持つという点で、非常に有効な事業であったと思う。
- ・報告会終了後の5月12日(日)の新聞で今回の事業のことが取り上げられていた。改めて今回の事業が、不登校・ひきこもりの方の社会参加と農業現場の人手不足解消という難しい複数の社会課題の解決に向けた、先駆的で画期的、チャレンジングな素晴らしい取り組みであったと実感した。事業を進めるにあたっては、行政による農家との連絡調整や信頼関係づくり、団体による農作業のための綿密な準備（作業の切り出しやマニュアル化、デジタル活用など）と当事者へのきめ細やかな寄り添いサポートなど、どれも必要不可欠で、双方が持てる力を存分に発揮することで大きな相乗効果が生まれたと思う。
- ・事業名の通りに本事業が市民活動団体と行政側との双方の問題解決に繋がった点は良かったと思う。
- ・農福連携については、継続的に仕事を提供しにくい農業の性格から、限界を感じているところが多い中で、スマート農業は可能性を秘めている。
- ・就農支援により就農や就労につながることで最大の成果であると思うが、不登校や引きこもりといった問題はまず外に出る（社会と関わる）ことが何より大切であることから、就農支援事業の継続と新たな魅力ある事業展開を期待する。
- ・ライスセンターの仕事の他に、キュウリ農家での作業も加えたことで、体験範囲を広げることが出来たのは良かった。
- ・農業者との間を行政がつなぐことで、しっかりした信頼関係を築けたことは、今後の活動の展開に向けても非常に大切な財産だと思う。

（２）課題の改善や今後への助言など

・今後も事業を継続していかれることを強く希望する。そのためにも、団体代表が話されていたように、リピーターや就労に結び付いた当事者がリーダーとなってサポート側にまわるような循環の仕組みづくりを目指しつつ、ひとりひとりに専門的に寄り添うサポートスタッフを増やすなど、体制強化に努めてほしい。ただし時間も要することで、団体がすぐに自走するのはハードルが高いのではないかとも思う。「誰一人取り残さない」社会の実現のためにも、行政には今後も財政的な支援も含めて積極的にかかわってほしい。

・今年度の事業継続は残念ながらもなくなってしまったが、民官共にこの協働事業の経験を基にそれぞれの目標に向けて更に邁進していただきたい。また、協働事業の実践者としてこれからの協働事業の在り方やメリットを周りに伝えていってほしいと思う。

・いまの方向性をさらに深め、市農水産課の事業として確立して欲しい。また、農福連携のためには、安定的な農作業の提供がポイントとなるが、その観点からもスマート農業を支援していただきたい。

・事業継続のための財源確保の仕組みづくりと、参加人数の拡大のあり方について検討を進めてほしい。

・具体的に農業への就業につながったことは素晴らしい。新たな就業者を増やすことはもちろん、その方の継続的な就業についても、側面支援が必要ではないか。

・ここで築いた信頼関係を基に、作業体験できる範囲をより広げることで、参加できる当事者を増やしていってほしい。